

2017(平成 29)年 10 月 28 日(土)

在宅医療・介護連携推進フォーラム in 湖東

開催しました!

(報告：一社)彦根愛知犬上介護保険事業者協議会)



知っていますか? 「在宅医療や介護」のこと



開会挨拶

当日はあいにくの雨模様にもかかわらず、150 名を超える方々が会場に足を運んでくださり、熱心に講演に耳を傾けてくださいました。

「自分の介護や看取りの経験を思い出し涙がでた」「もう少し詳しく話を聞きたかった、質問もしたかった」「これから自分は何をしていけばいいのか考えるきっかけになった」など、アンケートにもたくさんの意見をお寄せ頂き、改めて、住民の皆様への医療や介護に対する関心の深さを感じると共に、もっともって現状を皆で共有していかななくてはならないと感じました。

このフォーラムを出発点として、「住みなれた地域で最期まで安心して過ごせる」湖東地域めざして、皆の力をつなぎ合わせていきましょう!



彦根市長
大久保 貴 氏



彦根医師会 会長
上林 俊明 氏

基調講演 「皆でそのひとの暮らしをささえる」 ～新たな医療介護のかたち～



鈴木内科医院 院長 鈴木 央 氏 (東京都大田区)



鈴木先生は内科医として外来診療を行いながら、その合間に自転車を走らせ、在宅診療を行なう現代の赤ひげドクター。

今回、これからの医療や介護のこと、そして人生の最終段階をどう迎えるか等について、先生がご担当された患者さんの「人生のものがたり」やビデオも交えながら、わかりやすくお話をいただきました。

- ・最期まで、生活者として、家族や社会の中で自分らしく過ごしたいと願う患者の思いと不安。
- ・その気持ちに寄り添い、多職種が協働し「治す医療から支える医療」へ。
- ・患者自身も家族も医療介護スタッフも「何ができるか」「どこまでできるか」を問いながら、それぞれが「できることをできるだけ」「できることから一歩ずつ」していく。その過程が大切であること……等、鈴木先生の素敵な笑顔と優しい語り、皆さん聞き入っておられました。

《感想より》

- ◆鈴木先生の話には心揺さぶられ、父を思い出し涙が出てきました。(40代)
- ◆今後入院治療できない患者さんが増える中で、在宅医療の大切さを知り、いずれは人生の終末を迎える個々の人々にとって明るいことだと確認できました。そして地域の包括支援の一員になれるべくがんばりたいです。(60代)
- ◆在宅医療の仕組みや利用の仕方、導入の説明が、鈴木先生のお話でおおむね理解できたと思います。医師と患者のハートのふれあいや在宅診療の医師が増えてほしいと思います。(70代)
- ◆施設には行きたくないとがんばる主人。在宅医療は安心できること、連携プレーをしていただけることに家族としては不安が拭えました。(80代)
- ◆病気で困っても家庭で適切な医療を受けることができる。彦根でもぜひそうなって欲しい。自分がサルコペニアではないかと思う。「基本在宅、時々入院」、そうなりたい。(60代)

シンポジウム

わがまちの医療・介護・地域のちから。

「できることを分かち合おう！ 皆で考える基盤を作っていこう！」



司会者 日村 好宏 氏

彦根市立病院院長代理
彦根市福祉保健部理事




それぞれの立場から住民のみなさんへ伝えたいこと




行政（彦根市）より 彦根市長 大久保 貴氏
彦根市医療福祉推進課 課長 馬場 敬人氏

- ・住民の医療や介護への思いと現状
- ・湖東圏域での取組み




企業より (株)平和堂
代表取締役社長 平松 正嗣氏

- ・平和堂の経営理念
- ・地域コミュニティの拠点として
- ・暮らしのお手伝い




地域住民（介護者家族）より
花かたばみの会 代表 井川 裕子氏

- ・在宅看取りを体験して
- ・花かたばみの会を発足して
- ・看取る者として、看取られる者として




彦根医療福祉推進センターより
所長 切手 俊弘氏

- ・家族に出来ること
- ・医療、介護で出来ること
- ・最期をどのように迎えるか



地域包括支援センターより
多賀町地域包括支援センター 林 優子氏

- ・地域包括支援センターの役割
- ・多賀町での取組



＜感想より＞

- ◆人生の一生、生から死までは一連の過程として老後の在宅医療まで自然に過ごしていくような一つの考え方が希望を持たたような気がします。老後への備えの考え方ができたように思います。(70代)
- ◆在宅医療について理解が深まり、参考になり不安のない老後が迎えやすいです。(80代)
- ◆平和堂の活動、理念について教えていただき大変感動しました。井川さんの「今何をすべきなのか」ということに共感しました。(50代)
- ◆在宅看取りの中で悲しみの中にも温かな思いがあるということを感じたと話されていたのが印象的でした。(50代)
- ◆皆さんがこれからの高齢者人口増加に対しての支援活動に感銘しました。私も少しでもお役に立てるように努力したいと思いました。(60代)
- ◆住み慣れた地域で『生き』、最期を迎えたいと思える地域づくりが大切だと思いました。さまざまな立場があるが、住民も医療従事者も同じ方向を向かないとつくっていけないことだと思いました。生活（地域）の中に企業も入ってこられていることもわかりよかったです。(40代)



助言：鈴木央氏

閉会挨拶

一社）彦根愛知犬上介護保険事業者協議会
(在宅医療介護連携推進事業受託)

代表理事 鈴木 則成

